

## ヨハネ 17 章の 一致およびイスラエルのメシアニックジューの残りの者 2011 年 11 月 5 日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

### アシェル・イントレーター

最近祈りの中で、私は次のような洞察を得ました。皆さんがそれを識別されるよう、ご提示致します。

イスラエルのメシアニックジューの残りの者(レムナント)が世界中のより広範なメシアの体の指導者としての務めを果たす時が来ました。以前の聖霊の「波」にあつて、世界の様々な場所で異なった地元のメシアの体がそれぞれ指導を担っていました。それぞれの時に主要な啓示のテーマがあり、それがその時のメシアの体を導いていました。

では、何が今、その他のメシアの体を祝福するための、イスラエルの残りの者からの主要な啓示なのでしょう。その答えはヨハネ 17 章の一致の召命です。それはここイスラエルにいる者にとって驚きとして受け止められます。私たちは諸国の教会の一致が私たちにとっての中心的なメッセージになるとは思っていなかったからです。

時系列的に、世界的なメシアの体の回復の最後の部分はイスラエルのメシアニックジューの残りの者の回復です。同じように、全体としてのメシアの体の究極的な回復は ヨハネ 17 章の祈りによる一致に基づきます。この一致は聖霊によって栄光を受ける神との、神のご計画による一致が含まれ、そして最後の世界の大宣教に至ります。

ヨハネ 17 章の一致はローマ 11 章のオリーブの木のたとえとつながっています。諸国の教会の様々な部分は、様々な木々の枝が一本のオリーブの木に接ぎ木されるとして表現されます。この接ぎ木が一致をもたらします。それは、すべての枝が同じ木に接ぎ木されるからです。(私はこのヨハネ 17 章/ローマ 11 章のつながりを、20 年以上前に「5つの潮流(The Five Streams)」という本で書きました。)

[注:ヨハネ 15 章が語るぶどうの木は個人的な霊的なつながりを表し、一方、ローマ 11 章が語るオリーブの木は国家的、歴史的なつながりを表します。共にそれらはイエシュア、イスラエル、そして教会との一致を語るのです。]

この一致が起こるためには、イスラエルのメシアニックジューの残りの者としての私たちは 世界的なメシアの体、諸国の教会を「養子とする」必要があります。神はアブラハムに、「あなたは諸国の父となる」(創世記 17)と述べられました。ある家族が、自分の血縁でない子を家族の一員とする場合何と言うのでしょうか。それは「養子縁組」です。

神のアブラハムとの契約は、彼が、彼と同じ信仰にあるすべての国々の霊的な子どもたちを養子とすることにあり、彼らの祝福となることです。私たちはメシアニックジューの残りの者として、アブラハムの足跡をたどるよう諸国の教会の「養子」とし、私たちのメシアであるイエシュアを信じる霊的な兄弟姉妹の祝福となるよう召命を受けているのです。

他の諸国を「養子」とするためには、私たちは心を広くしなければならず(II コリント 6:12、7:2)、十字架を受容し、民族的な誇りに死に、拒絶されたことから癒やされ、他者に与える信仰を持ち、諸国に仕え、真のメシアの体である諸国のエクレスシアを支援することが私たちの召命であることを理解する必要があります。

諸国のエクレスシアは大家族の家族のように見えます。イスラエルの残りの者は家族の年上の兄弟となるはずで、年上の兄弟あるいは最初に生まれた息子は拡張家族を一つにまとめるのが役割です。私たちメシアニックジューはヨハネ 17 章の一致の召命を受け入れ、ローマ 11 章の残りの者としての召命をも受け入れるのです。

注:エクレスシア:ギリシャ語で「集会」という意味。それがその後「教会」と訳されるようになった。

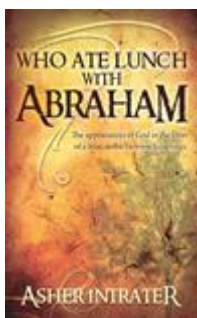
### モサブのイスラエルに関するコメント

ここにモサブ・ハッサン・ユーセフ氏（ハマス創始者の一人の息子）がイスラエル、イスラム、そして中東に関して語る 14 分間の強力な動画があります。そしてイエスの愛が彼の心を変えたかを語っています。驚くべき内容です。どうか福音のために自分の命を危険にさらすこの親愛なる青年のためにお祈り下さい。

[http://www.youtube.com/watch?v=LN0Zb7ody\\_U](http://www.youtube.com/watch?v=LN0Zb7ody_U)（英語）

注:モサブ・ハッサン・ユーセフ氏の本「ハマスの息子」は日本語版もあります。Amazon で購入されるか、書店でご注文下さい。

### 誰がアブラハムと食事したのか



アシェルの新しい、長く待たれていた本「誰がアブラハムと食事したのか」がようやく届きました。これは、律法書や預言者の書、そして黙示録からイエシュアが主の御使いとしての姿を取ったことを分析するものです。この本はメシアであるイエシュアの永遠の特性と聖書全体を通して徐々に啓示されていくことに関し、あなたに靈感を与え、あなたの理解に問いかけるものです。

この本の主題は長年にわたってヘブライ語の文書を研究してきただけでなく、イ

スラエルにいる正統派ユダヤ人に福音を伝える現場での経験に基づいています。(もちろん多くの祈りや執り成しがあったことは言うまでもありませんが)。

どうか見逃さないで下さい。どうか注文し、友人にも送って下さい。注文される方は[こちらをクリック](#)して下さい。(本は英文であり、注文も全英文です。)

出版の初期に特別な割引を用意しております。1度の注文でまとめて購入される場合、10冊で10%引き、20冊で20%引き、30冊で30%引きとしております。このまとめてご注文をされる場合、[こちら](#)にメールを送って下さい。(英文)

(「**誰がアブラハムと食事したのか**」の序章からの抜粋)

多くのユダヤ人は、タナッハ(ヘブライ聖書:旧約聖書のこと)の権威を受け入れています、新訳聖書は受け入れていませんので、タナッハだけからイエシュアにある救いの神のご計画を説明する必要があります。(初期の使徒たちはイエシュアをタナッハだけから証しました。それは、彼らがまだ新訳聖書を作成している途上にあつたからです。)

タナッハの中にはメシアについてのすばらしい預言がたくさんあります。使徒たちは常にこれらの預言から話し始めます。例えば**使徒 8 章**でピリポがエチオピア人の宦官に**イザヤ 53 章**から分かち合いました。ここイスラエルで救いの福音をヘブライ語で分かち合うことはとりわけ正統派ユダヤ人に対しては、私は預言だけでは十分ではないことが分かりました。預言がたとえ明瞭であつたとしても、心が開いていない人はただ、私たちの解釈とは合わない、と言うのです。

多くの学びと祈りを通して(多くの論争、摩擦そして個人的な経験を伴いますが)、私は別の方法を見始めました。すなわち、メシアに関する**預言**だけでなく、メシアが主の御使いという姿を通して実際に現れたことです。主の御使いとメシアであるイエシュアのつながりは真に啓示的です。そのような躍動的な啓示をこの本で示したいと私は思っているのです。